

只見米フェス開催!

同時
開催

只見地区JAまつり

只見・紅葉！新米&特産物食べつくしウォーク

只見米ブランド協議会の主催で「第3回只見米フェス」が、10月28日に只見線広場で開催されました。また、同会場で、「只見地区JAまつり」と「只見・紅葉！新米&特産物食べつくしウォーク」が同時開催されました。

開会式では、只見米ブランド協議会の山内征久会長が開会宣言を行い、その後、渡部勇夫町長、長谷川純一会津若松市議会議員、菅家忠町議会議員から祝辞がのべられました。また、森まさこ参議院議員も駆けつけ、お祝いの言葉を述べられました。

開会式の最後には、もちまきが行われ、米フェスが盛大に開会しました



会場内では、お米の食べくらべが行われました

只見高校生が企画した甘酒やトマトソースの試食ブース



お餅のふるまいも大人気でした



破裂音と共にできあがるポン菓子に子どもたちは大喜びでした

スーパーボールすくいなどもあり、子どもたちも楽しみました



同時開催のウォーキングイベントは、ゆっくり紅葉を楽しむことができました



JAよつばブースでは、みろ田楽ややきとりの販売が行われ、来場者のお腹を満たしました



ふくしま駅伝 只見町チームお疲れ様でした

第35回市町村対抗県縦断駅伝競走大会（ふくしま駅伝）が、19日に開催されました。コースは、白河市のしらかわカタルスポーツパーク（白河市総合運動公園）陸上競技場をスタートに、福島県庁前をゴールとした16区間、96.3キロです。今大会には4年ぶりに県内の全59市町村が参加し、連合チーム「希望ふくしま」を含む53チームが出場しました。

県内ではインフルエンザなどが流行し、練習初日から本番当日まで、個々での厳しい体調管理が求められる中、只見町チームは、誰一人欠けることなく、ゴールテープを切りました。

結団式及び壮行会

大会に先んじて、只見町チームの結団式及び壮行会が11月9日に朝日公民館で行われ、渡部町長から選手たちに「自分を信じ、仲間を信じ、チームと町民の縁をタスキで繋ぎ、全力でコースを駆け抜けてきてください。そして、レースを楽しんでください」と激励の言葉が送られました。



練習に励む選手

選手たちは、昼間に学業や仕事があるため、平日の練習は夜に行われます。取材した当日は、気温が4℃でしたが、サポートメンバーや家族が手袋などを用意したり、周りの皆さんも一丸となって練習を行っていました。

夜練の最終日に目黒英樹監督は「若手が中心のチームですが、重心は大人たちにあると感じます。選手もサポーターも手本になる大人ばかりです。この姿を見て頑張る若手はとても前向きです。このチームで96.3kmを走りぬきたいと思います。本人は当然ですが、家族も体調管理に気を配ってくださっていることに感謝しています」とチームへの思いを話しました。



レース前日～レース本番～レースを終えて

本番前日、会場入りした只見町チームは、最後の練習を行い、本番に向けての最終調整を行いました。レース当日、今年一新したユニフォームに身を包んだ只見町チームは、最後までタスキを繋ぎ切りゴールしました。レース後、チームの精神的な支柱である飯塚大輔さんは「苦しい走りだったが、沿道から多くの声援があり、走り切りました」と話しました。

